

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

殿

2025 年 4 月 1 日

ウベコン浜田株式会社 広島工場  
広島県広島市安佐北区安佐町久地234番地の5

配合計画者名 渡邊 義弘

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月1日～5月31日, 10月1日～12月10日, 左記以外の期間は備考欄に記述。(標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		普通	27	12	20
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	—		コンクリートの温度	— °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水結合材比の目標値の上限	—
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5 %		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	— cm

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	広島市安佐北区可部町大字綾ヶ谷産	A	化学法	5以下	2.75	----	2.55	—
	②	砕砂	安佐北区安佐町筒瀬産	A	モルタルバー法	5以下	2.95	----	2.62	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石1505	安佐北区安佐町筒瀬産	A	モルタルバー法	15～5	6.35	----	2.69	1.0±1.0
	②	砕石2010	安佐北区安佐町筒瀬産	A	モルタルバー法	20～10	6.94	----	2.69	1.0±1.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	AE減水剤標準形 I 種		Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物物量	0.00		水の種類	地下水・回収水(上澄み水)			目標スラッジ固形分率	—		
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—		スラッジ水の使用法		—		

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
336	—	173	405	417	—	379	570	—	2.86	—
水セメント比		51.5 %		水結合材比		— %		細骨材率		47.4 %

備考 JIS規格品

細骨材混合比(容積) 加工砂:砕砂=50:50  
粗骨材混合比(容積) 砕石1505:2010=40:60

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更。

夏期 6月1日～9月30日 +20% 冬期 12月11日～2月29日 -20%

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# 配合計算書

配合計画者名 渡邊 義弘

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績値により			10.00 %
割増係数	$\alpha$	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.215$ $\alpha 2 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.250$			$\alpha 1 = 1.215$ $\alpha 2 = 1.250$ $\alpha = 1.250$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.250 \times 27 = 33.8$			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -15.6 + 25.6 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{25.6}{33.8 - 15.6} \times 100 = 51.5$			51.5 %
単位水量	W	当工場の実績値により			173 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{173}{51.5} \times 100 = 336$			336 kg/m <sup>3</sup>
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 336 \div 3.04 = 111$			111 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (173 + 111 + 45) = 671$			671 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績値により			47.4 %
単位細骨材量	Sv	$Sv = Va \times s/a(\%) = 671 \times 47.4(\%) = 318$			318 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 50(\%) = 159$			159 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 50(\%) = 159$			159 ℓ/m <sup>3</sup>
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.55) = 405$			405 kg/m <sup>3</sup>
	S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.62) = 417$			417 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 671 - 318 = 353$			353 ℓ/m <sup>3</sup>
	Gv1	① $Gv1 = Gv \times 40(\%) = 141$			141 ℓ/m <sup>3</sup>
	Gv2	② $Gv2 = Gv \times 60(\%) = 212$			212 ℓ/m <sup>3</sup>
	G1	① $G1 = Gv1 \times \text{密度}(2.69) = 379$			379 kg/m <sup>3</sup>
	G2	② $G2 = Gv2 \times \text{密度}(2.69) = 570$			570 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 336 \times 0.85(\%) = 2.86$			2.86 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
336	—	173	405	417	—	379	570	—	2.86	—
水セメント比		51.5 %	水結合材比			— %	細骨材率		47.4 %	

備考 JIS規格品